

2019. 10. 29

畑 啓之

「日本人の三分の一は日本語が読めない!？」は過小評価であると思うのだが・・・

日本語が読めない？ 文字は読めるのだが意味するところが理解できないということのようだ。コンピュータに文字列が理解できるとは思わない。実際には大きなデータベースを作り上げ、さらに解読ルールを配して難文でも理解できるようにしている。ということは、今日の日本人は、日本語が読めないのではなく、そのバックグラウンドにある知識量や知恵の不足や欠如が文章の意味理解を難しくしているとの結論に至る。

昔の人は学校でも熱心に勉強したが、それ以外にも多くの勉学をし、経験も積んだ。今でいえば独学である。さらに今風に言えばリベラルアーツ（教養）である。

簡単な算数ができない？ コンピュータではデータベースを用いることなく非常に簡単にこの計算を行うことができる。従って、日本語の理解とは全く別次元の話である。

日本語理解と算数の能力は本来独立して議論されるべきものであると考える。日本語理解ができる人・できない人と簡単な算数の計算ができる人・できない人の間にはどのような相関関係があるのか？ 日本語理解ができない人は高い確率で簡単な算数計算ができないのか？ 記事はここまで踏み込んで議論すべきものである。

記事は日本の生産性の低さにも触れている。生産性を高くするには、①仕事に最低限必要な「読解力」を持つ人材②仕事に最低限必要な「数的思考力」を持つ人材③仕事に最低限必要な「IT 活用力」を持つ人材が必要であると。①②③の全てが求められる人材は全人口の何%であるのか。「できない」という記事の内容よりも、この三拍子そろった人材の割合が他国と比べて日本では同であるかの議論が必要である。

物事を表から見るか裏から見るか、ポジティブにとらえるかネガティブにとらえるかで、ものの見え方は大きく変わってくる。日本人は減点主義をやめ加点主義とすべきである。そうすることにより、記事にある「例えば画一的な教育の結果、米国の飛び級のような「できる子がその才能を一段と伸ばす環境」に乏しいとの批判はその一つ。最近では、「ギフテッド」と呼ばれる IQ130 以上の子供たちが周囲から疎外される「浮きこぼれ」も問題になりつつある。」もなくなっていくだろう。日本の村社会は貴重な人材を自らの手で絞殺していることを自覚すべきである。

日本人の 3分の1 は日本語が読めない!? 量産される「A I 未満人材」

<https://business.nikkei.com/atcl/NBD/19/special/00261/>

日経ビジネス記者 2019年10月25日

簡単な計算ができず、日本語の文章を読んでも十分に理解できない。世の中を生き抜く必要最低限のスキルのない社会人が、今後増える恐れがある。教育の劣化が背景にあり、強い人材を育てる仕組みの再構築が欠かせない。

「 $8-0.23=\square$ 」「 $66.3\div 1.3=\square$ 」「桃を24個ずつ箱に詰めたら12箱になりました。9個ずつ詰めると何箱できますか」

明治期から100年以上の歴史を持つ日本の教育。とりわけ戦後の日本型教育はあまねく学びの場を提供できるシステムとして国際的にも評価されてきた。もちろん課題もあり、例えば画一的な教育の結果、米国の飛び級のような「できる子がその才能を一段と伸ばす環境」に乏しいとの批判はその一つ。最近では、「ギフテッド」と呼ばれるIQ130以上の子供たちが周囲から疎外される「浮きこぼれ」も問題になりつつある。

それでも、社会で生き抜く必要最低限の知識をできるだけ多くの人に植え付けるという意味では、日本の教育は世界トップクラスだと思うはずだ。だが「引き算や割り算を学び直す大人たち」の存在は、そうした楽観を突き崩すと言える。実は「普通の人材になるためのスキル」の教育さえ十分できなくなりつつあるのではないか……。この仮説が正しければ、事は学術論文の数が減るどころでは済まず、日本企業の競争力そのものに当然、影響を及ぼす。

足を引っ張る生産性の低さ

各評価項目で「ビジネスの効率性」は実に46位、企業の生産性と競争力の低さが足を引っ張っていることは明白だ。原因分析と取り組むべき課題についてIMDの見解はシンプルで明快だ。「Work-style reform and human resources development」。働き方改革と同時並行で人材開発を一層進める必要があると強調する。

では、日本が上位の座を狙うためにどのような人材の育成を強化すべきか。ヒントは、経済協力開発機構(OECD)による学習到達度調査PISA(ピサ)の成人版PIAAC(ピアック)にある。16~65歳の約15万7000人の調査から導き出せるその人材は次の3種。①仕事に最低限必要な「読解力」を持つ人材②仕事に最低限必要な「数的思考力」を持つ人材③仕事に最低限必要な「IT活用力」を持つ人材——である。